



平成 25 年度鹿島小学校 学校図書館支援活動報告

鹿島小学校担当 遠藤 因里

平成 25 年度 鹿島小学校学校図書館支援活動報告

担当 遠藤 因里

図書担当教諭 渡部 千恵子先生(前年度に引き続き)
遠藤 恭子先生(前年度に引き続き)

派遣日 毎週月曜日・木曜日・金曜日の週3回

鹿島小児童数

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
41	50	36	57	43	48	275名

本年度行った活動について

「本の貸し出し」

本の貸し出しのほか、貸し出し準備として貸し出し用ファイルの準備や児童用貸し出しバーコードの作成を行った。

「おすすめの本」の紹介

図書室入り口近くにコーナーを設置し、教科書に載っている本や子どもたちに読んでもらいたい本を紹介した。



「寄贈本の受け入れ」

杉並区をはじめとして、今年度も理想教育財団など多くの本の寄贈を頂いたので、随時寄贈本の受け入れ作業を行った。

「調べ学習の時の資料相談」

調べ学習のとき児童と一緒に本を探したり、図書室に本がない場合は中央図書館から借りて対応した。今年度中央図書館からの資料の貸し出し回数は14回だった。

「書架整理、ラベル変更」

児童の調べ学習の様子をみて、4類(理科)と5類(主に環境)は内容的にも重なることがあるので、書架が隣同士になると使いやすくなるのでは?と思い、傷んでいる本やISBNがない本を中心に除籍を行った。分類が曖昧な本はコンテナにまとめて入れておき、時間があいたときに中央図書館と同じ分類にラベル変更を行った。



「学級文庫の登録・入れ替え・除籍」

夏休み中に学級文庫の入れ替えを行いたいと図書担当の先生に相談したところ、快く承諾していただき、更に「図書室までの本の運び入れは5、6年生に運ばせませう。」と申し出ていただいた。



かなりの本が学級文庫としてあったことが分かったが、ほとんどの本が未登録で、分類用のラベルも貼られていなかった。

当初、夏休み中に登録、分類ラベル貼りを終わらせる予定だったがなかなか作業が進まずこの作業に多くの時間がかかってしまった。

登録終了後、複本が多いものは学級文庫へ、移動することにした。また、子どもたちに読んでもらいたい本も含め、図書室が利用できる3～6年教室へは30～40冊くらい、1～2年生教室へは絵本を中心に乗り物や生きもの図鑑など50冊程度を選んだ。

各教室への搬入は図書委員会の活動の一環として、委員会の子どもたちが手伝ってくれてとても助かった。図書室利用が出来る学年の本の配架が少ないのには、図書室へ来てもらう“ねらい”もあったが、思うように貸し出し増加にはつながらなかった。

「除籍」



学級文庫から戻ってきた本や杉並文庫をはじめとする寄贈本を配架する場所がなかったため、内容が古く今の授業内容と合わない本や傷みの激しい本を中心に除籍を行った。(200冊くらい)

「図書館見学」

鹿島図書館見学 (9/13)

2年生児童、50名 担当教諭 2名

鹿島図書館館内案内、館内閲覧、貸し出し

1クラスずつ交互に館内案内、貸し出し館内閲覧を行った。

例えば1組が、館内案内、貸し出し自由閲覧を行っている間は中央図書館の職員がロビーで絵本の読み聞かせや子どもたちの質問に答えてくれた。時間内に終了することが出来て効率的な見学となった。

中央図書館見学 (10/2)

2年生児童、50名 担当教諭 2名

中央図書館館内案内、子ども図書館内閲覧、返却

鹿島図書館で借りた本を返却後、1クラスずつ、館内案内、子ども図書館閲覧を行った。鹿島図書館見学の時と同じく、クラス単位で交互に行ったので予定どおりに時間内に終了することが出来た。

「本の配架の工夫」

図鑑をNDC(日本十進分類法)に従い昆虫の図鑑なら4類の棚に配架したところ、「図鑑は図鑑で配架した方が使いやすいので元に戻してほしい。」と調べ学習に来た際にクラス担任から指示があった。

理由は、図書室へ来る子どもたちの様子を見ると5~10分という短い時間で本を選ぶことが多く、本が分散されているとそれだけ本を選ぶ時間がかかるからであった。このことがきっかけでNDCによる分類を基準としながらも、それぞれの学校にあった本の配架が必要だと感じた。



貸し出し冊数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
4月							
5月							
6月							
7月				14	16	6	36
8月				0	0	0	0
9月			17	11	31	0	59
10月			22	33	41	11	107
11月			19	15	31	4	69
12月			5	8	9	22	44
1月			0	5	9	11	25
2月			27	8	9	22	66
3月			0	5	7	11	23
合計			90	99	153	87	429

夏休みの貸し出し

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
81	96	72	114	86	48	497

冬休みの貸し出し

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
81	196	36	48	52		413

夏休み、冬休みは児童1人当たり、2冊の貸し出しを行った。

1年間を振り返って

鹿島小担当になり2年目を迎えた。中央図書館の職員の方や学校図書館支援員のみんなにアドバイスを頂きながらもなんとか学校図書館支援活動を行ってきた。しかし、「子どもたちが足を運びたくなる図書館」、「調べ学習に役に立つ図書館」を目指して学校図書館支援活動に関わってきたが思うような結果が得られなかった。

読み聞かせや調べ学習の依頼が少なかったのは、それは一言でいうと学校図書館支援員とはどういうことをするのか、学校に伝えきれなかったことだと思う。

また、鹿島小は電算化されているが、せっかくの機能を使いきれていなかった。

つまり、PR不足と自分のスキル不足を感じる。年度末、年度初めは先生方(学校)とのコミュニケーションをとれるかとれないかでその後の活動が左右される。しかし、何かと年度末、年度初め先生方(学校)は忙しく、なかなか相談をする機会を得られない。せっかく年度初めに「教育計画」を頂いても、どの授業で、何冊、いつまでに資料が必要かまでは書いていないので、自ら進んで学校側とコミュニケーションをとらなければ十分な資料提供には繋がらない。図書室にいる事が多いうえ、放課後は、子どもたちの貸し出し対応をしているため先生に会う機会をつくるのが難しかった。

総合的に振り返ってみると、私自身の学校図書館支援員の仕事内容のPR不足と図書館員として知っておかなければ事を知らない自分のスキル不足だと思う。この反省点を踏まえて来年度は図書室が子どもたちに身近な場所になるように工夫をして行きたい。